

第1章 山口市の教育を取り巻く状況

1 社会の状況

(1) 少子化、高齢化の進展

日本は世界的にも類を見ないスピードで超高齢社会*を迎えています。

本市においても平成27年の国勢調査においては、人口は微増となりましたが、少子化や高齢化は依然、進行しており、1世帯あたりの人数も減少するなど、核家族化や単身世帯の増加が進み、世帯構成は大きく変化しています。

こうした社会の変化は、地域における人間関係を希薄化し、家庭における子どもたちへの関わり方にも影響を与え、教育力を低下させる恐れがあると考えられます。

	1995年 (H7)	2000年 (H12)	2005年 (H17)	2010年 (H22)	2015年 (H27)
総人口	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422
年少人口割合	16.2%	14.9%	14.2%	13.8%	13.2%
老年人口割合	17.6%	19.9%	21.7%	23.8%	27.0%

(2) 急速な技術革新とグローバル化*の進展

あらゆる物がインターネットに繋がり、AI(人工知能)が普及するなど技術革新が進み、SNS*やICT*機器の活用方法や情報モラル*教育の重要性が高まっています。

また、グローバル化が進展する社会で生きぬき、共存、協力することができるコミュニケーション力が求められています。

(3) 安全・安心な学校づくり

近年、地震や豪雨などの大規模な災害により、道路や河川、建物など社会資本の被害が多く発生しています。子どもたちが日中の多くの時間を過ごす学校施設の安全性の確保を最優先させ、本市では、建物の構造体の耐震化を平成27年度に完了しました。

今後も、屋内運動場の吊り天井の撤去や非構造部材の耐震化などを推進するとともに、子どもたちが災害時に適切な行動がとれるよう実態に即した訓練を進める必要があります。

2 山口市の状況

(1) 協働によるまちづくりの推進

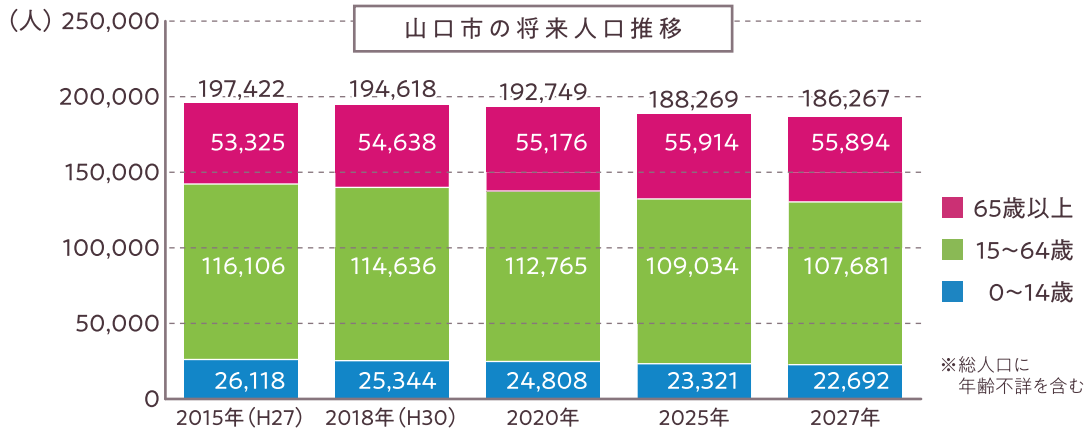
本市では、公共サービスの提供や、まちづくりにおいて、地域住民のニーズに合ったきめ細かなサービスの提供のために、行政、住民、市民団体、民間事業者などの多様な主体が特性を発揮する「協働によるまちづくり」を推進しています。

教育分野においても、これまで「協働によるまちづくり」の視点により進めてきた取組をさらに充実させ、学校、家庭、地域が連携して、子どもから大人までの教育や学習を支える環境づくりとともに、地域社会のために行動できる人づくりを推進していく必要があります。

(2) 人口の推移

山口市の人口は、平成27年国勢調査において、山口県の総人口が減少し続けている中であつても、約19万7千人と増加に転じました。

しかしながら、将来人口推計(本市独自推計)では今後減少していくことが予想されています。第二次山口市総合計画では、山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく諸施策を展開することで、2027年度において、約19万人を維持することを目指しています。



(3) 山口市内の幼稚園及び小・中学校の状況

小・中学校に通う子どもは減少傾向にあります。こうした中、幼稚園の園児数は減少しているものの、保育所等に入所している児童数は増加しており、保育を要する子どもの数は増加しています。

① 幼稚園数及び園児数の推移 ※国・公・私立の合計	年度	2014年(H26)	2015年(H27)	2016年(H28)	2017年(H29)
	幼稚園数	23	23	23	23
	男(人)	1,357	1,319	1,329	1,336
	女(人)	1,361	1,375	1,295	1,236
	計(人)	2,718	2,694	2,624	2,572

(参考) 保育所等数及び入所児童数の推移 ※公立・私立の合計	年度	2014年(H26)	2015年(H27)	2016年(H28)	2017年(H29)
	保育所数	38	40	43	47
	人数(人)	3,029	3,121	3,342	3,634

② 小学校数及び児童数の推移 ※山口附属小を含む	年度	2014年(H26)	2015年(H27)	2016年(H28)	2017年(H29)
	小学校数	35	35	34	34
	男(人)	5,478	5,431	5,374	5,345
	女(人)	5,274	5,264	5,186	5,238
	計(人)	10,752	10,695	10,560	10,583

③ 中学校数及び生徒数の推移 ※分校、山口附属中、野田中を含む	年度	2014年(H26)	2015年(H27)	2016年(H28)	2017年(H29)
	中学校数	20	20	20	20
	男(人)	2,979	2,960	2,904	2,794
	女(人)	2,840	2,871	2,839	2,746
	計(人)	5,819	5,831	5,743	5,540

3 これまでの取組の成果

平成26年3月に策定した第一次山口市教育振興基本計画では、「やまぐちで育てる 夢をもち 未来を切り拓き 世界にはばたく子ども」を教育目標に掲げ、「知力」、「体力」、「徳力」、「コミュニケーション力」の4つの力を身に付け、自分自身で未来を切り拓くことができる子どもたちの育成を目指してきました。計画期間中に重点的に推進してきたプロジェクト事業についての成果は次のとおりです。

(1) 学力・体力向上プロジェクト

- 県内トップレベルの補助教員数(約130人)の配置によるきめ細かな指導を行いました。
- 平成26年度から指定校においてタブレット端末[※]実証実験を行い、平成27年度から平成31年度(2019年度)にかけて小・中学校の全クラスに電子黒板[※]と専用パソコンを、各学校2クラス分(小規模校については1クラス分)のタブレット端末を計画的に配置しています。
- 山口市教育支援ネットワーク「やまぐち路傍塾」[※]の登録者及び活用状況が着実に増加しました。
【平成28年度 登録者数558人 利用件数1,857件】
- 学校給食における地産地消率が向上しました。

(2) 心の育成プロジェクト

- 発想力や表現力を育むとともに、読書意欲の向上を目指し、平成28年度から読書ノートを導入しました。
- 日本でもトップクラスの劇団や演奏家による舞台芸術や鑑賞会を実施しました。
- 山口市いじめ防止基本方針を策定し、学校と教育委員会が連携していじめ防止に取り組む体制を構築しました。
- コミュニティ・スクール[※]の活動を通し、学校と地域が連携したボランティア活動を実施しました。

(3) グローバル人材育成プロジェクト

- 児童生徒が生きた英語にふれることができるように、外国語指導助手[※]を10名配置しました。
- 世界スカウトジャンボリー[※]大会期間中に、世界各国の約2千人のスカウトが全小・中学校で児童生徒と交流しました。
- 山口情報芸術センター[YCAM][※]との連携により、スポーツを通じてテクノロジーと触れ合う機会を提供する「スポーツハッカソン[※]」を小学校で実施しました。
- 郷土の歴史や文化の理解につなげるため、平成27年度から中原中也読本を副読本として活用しています。

(4) 学校安心・安全プロジェクト

- 平成27年度をもって市立の全幼稚園、小・中学校の建物の耐震化は完了しました。
- 平成29年度までに全幼稚園と24校の小学校に緊急通報システムを整備しました。今後も残り9校の小学校に計画的に整備予定です。
- 毎年各地域で行う通学路の危険箇所の安全点検や地域の方の見守り活動などによる登下校時の安全対策を実施しました。



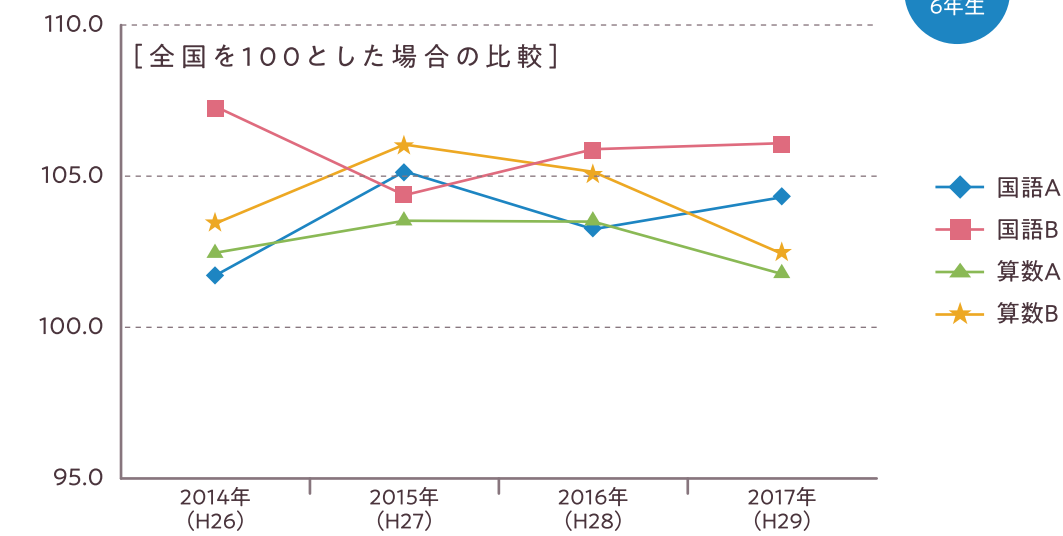
4 子どもの状況

(1) 学力・学習状況の現状

小学校6年生と中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査※」における本市の平均正答率は、小学生、中学生ともに平成26年度以降、全国平均を上回る結果となっています。

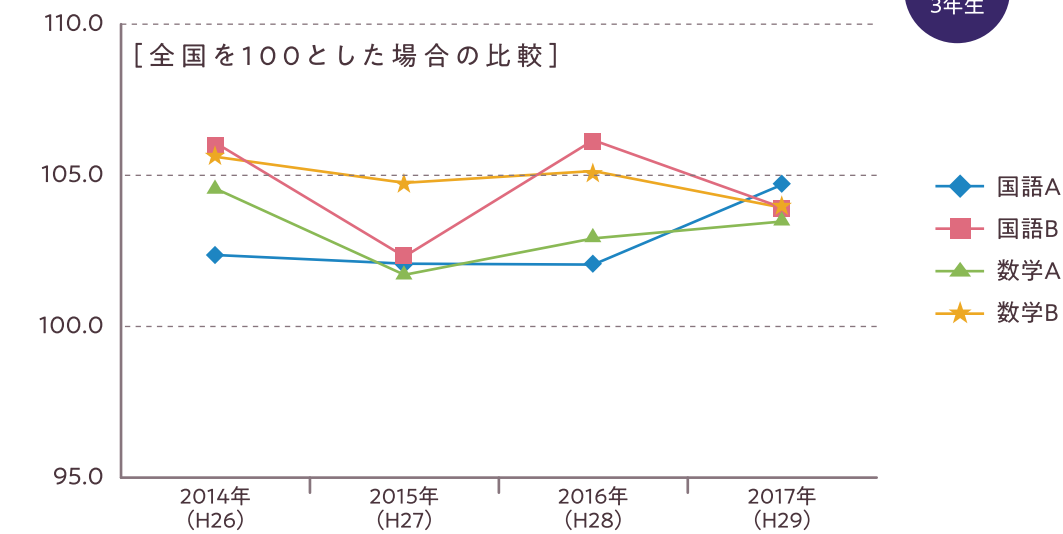
山口市と全国の各教科平均正答率の比較

小学校
6年生



山口市と全国の各教科平均正答率の比較

中学校
3年生

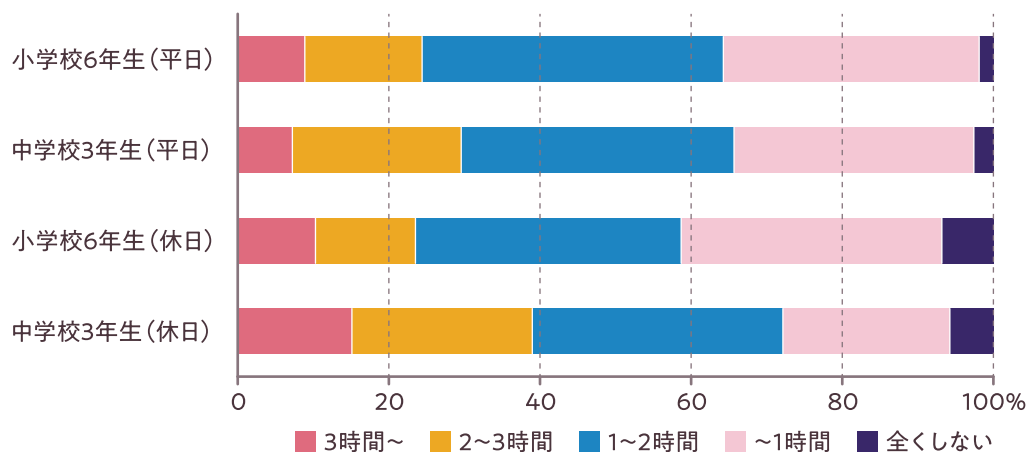


※各教科ともAは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題

学校の授業時間以外の学習時間は、平日・休日ともに約6割から7割の小・中学生が1時間以上学習しており、中でも1時間以上2時間未満の小・中学生が最も多くなっています。

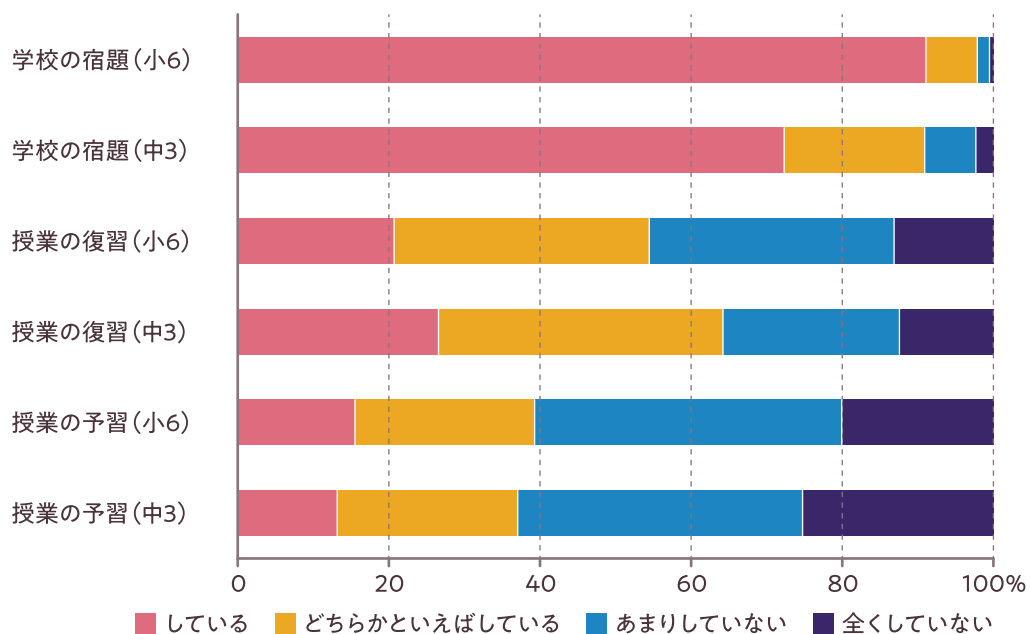
また、ほとんどの小・中学生は、平日には授業以外の学習に取り組んでいる状況です。

学校の授業以外の1日当たりの学習時間



家庭での学習状況については、ほとんどの小・中学生が宿題に取り組んでいますが、1割から2割が予習や復習に取り組んでいない状況です。

家庭での学習状況



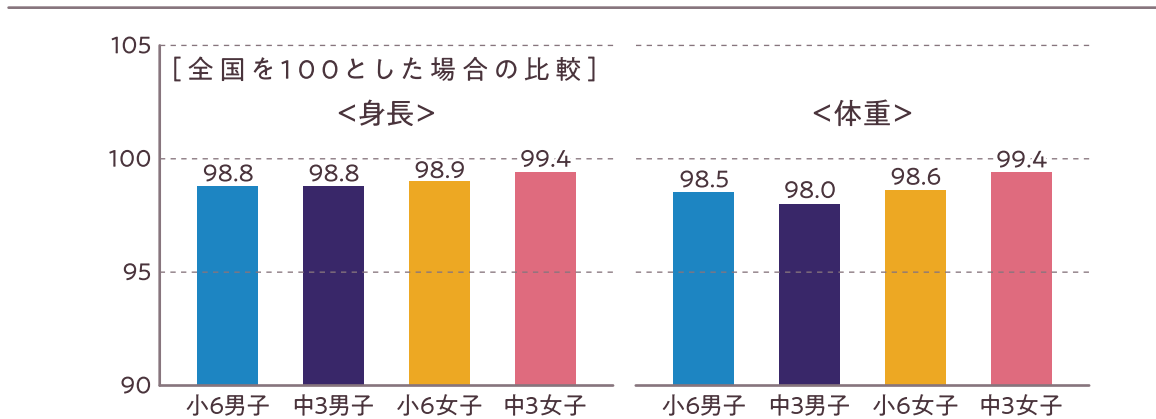
学力の定着には、学校の授業以外の家庭での学習が必要であることから、学習習慣の定着にさらに取組を進めていく必要があります。

※平成29年度(2017年度)「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

(2) 体格・体力の現状

本市の子どもたちの体格は、「学校保健統計調査※」によると、小学校6年生・中学校3年生の男女の身長・体重とも全国平均を下回っています。

子どもの体格

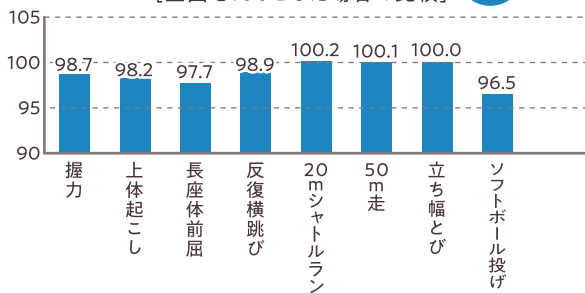


※平成28年度(2016年度)「学校保健統計調査」(文部科学省)より

小学校5年生と中学校2年生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※」によると、体力面では種目ごとに比較すると「20mシャトルラン」、「50m走」、「立ち幅とび」といった種目が、小・中学生の男女とも全国平均レベル程度かそれ以上にある一方、「握力」や「長座体前屈」については全国平均を下回っており、筋力や柔軟性の不足といった課題が見受けられます。

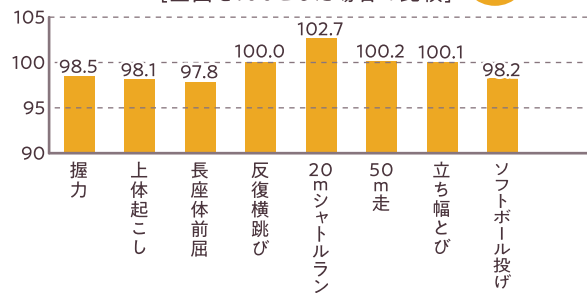
小学校5年生の体力

[全国を100とした場合の比較]



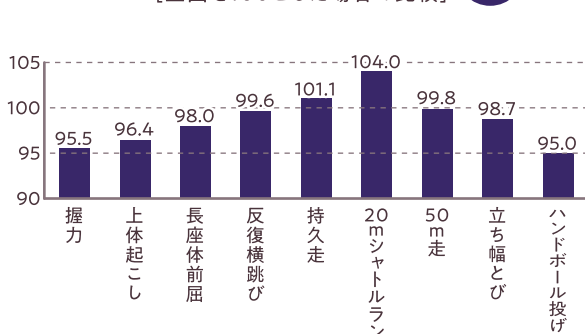
小学校5年生の体力

[全国を100とした場合の比較]



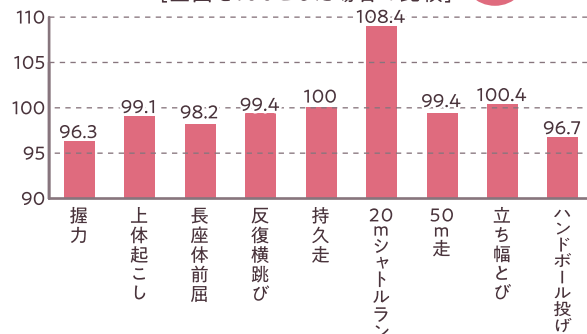
中学校2年生の体力

[全国を100とした場合の比較]



中学校2年生の体力

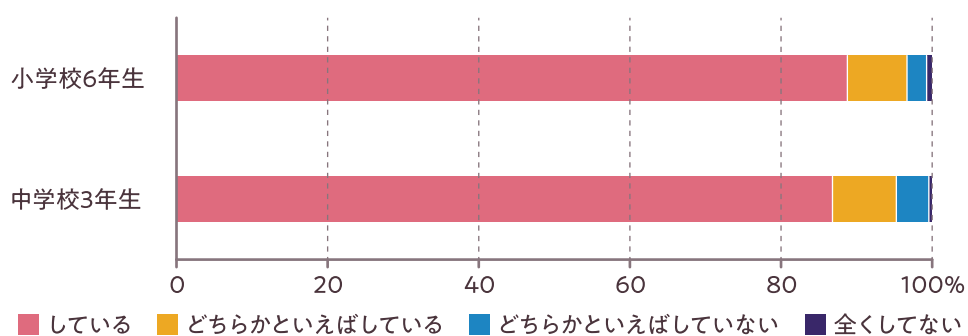
[全国を100とした場合の比較]



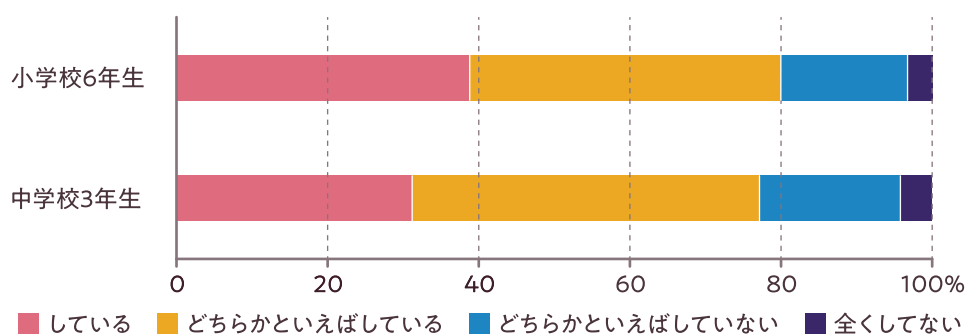
※平成28年度(2016年度)「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)より

生活習慣面では、「全国学力・学習状況調査」において、「朝食を毎日食べている」という設問に、「している」または「どちらかといえばしている」と回答した小・中学生の割合は、ともに9割を超えています。一方、「毎日同じくらいの時刻に就寝している」と回答した小・中学生の割合は8割前後と低く、子どもたちに規則正しい生活習慣を定着させていく必要があります。

朝食を食べている児童・生徒の割合



毎日、同じくらいの時刻に就寝している児童・生徒の割合



※平成29年度(2017年度)「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

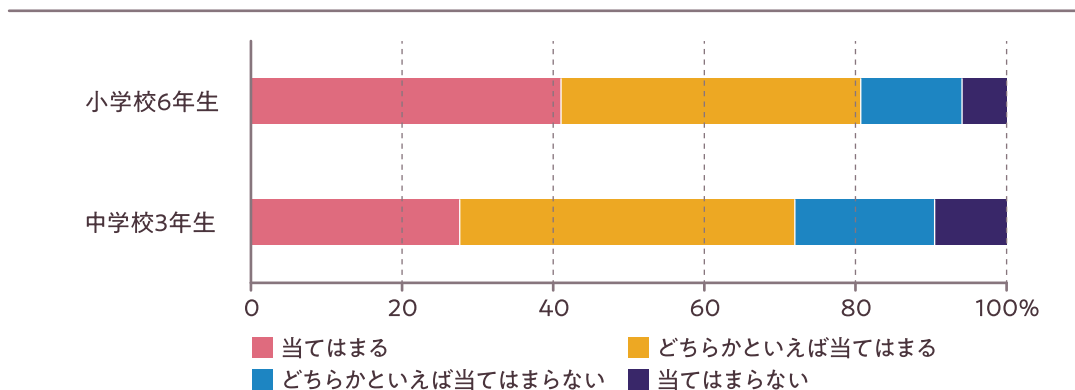


(3) 意識の現状

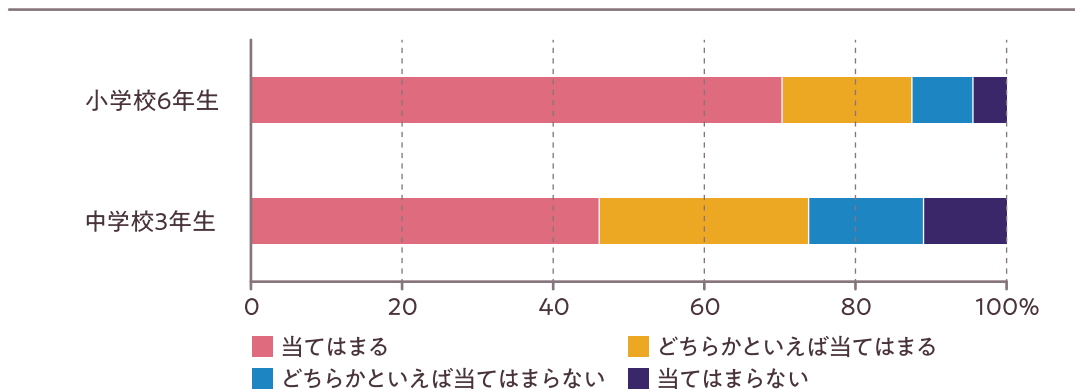
「全国学力・学習状況調査」において、「自分には良いところがあると思う」という設問に、「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学生の割合は約8割となっているのに対し、中学生は7割強となっており、年齢が上がるにつれて子どもたちの自己肯定感が低くなる傾向にあります。

「将来の夢や目標を持っている」小学生の割合は、9割弱となっているのに対し、中学生は7割強と減少しており、年齢が上がっても将来に対する夢や目標を持つことができる環境づくりが求められます。

自分には良いところがあると思う児童・生徒の割合



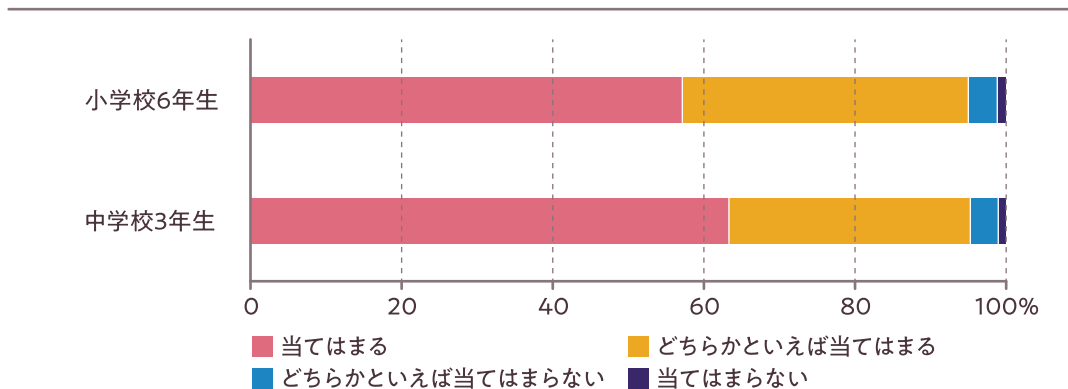
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合



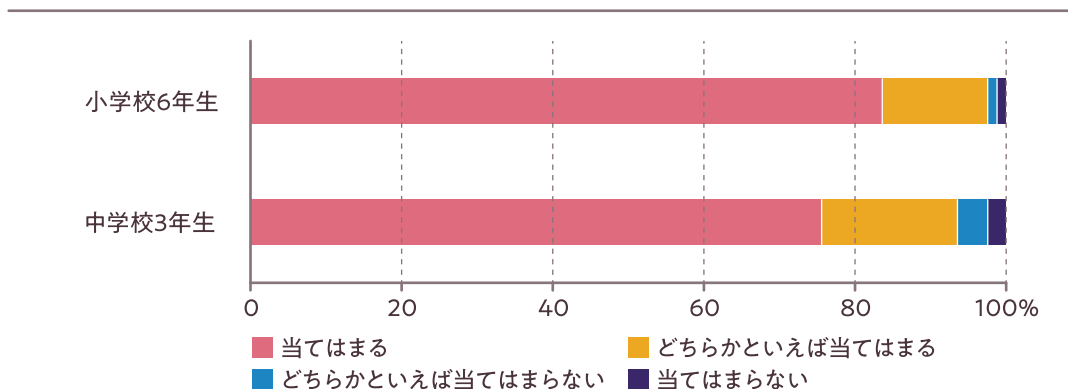
※平成29年度(2017年度)「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

一方、「学校のきまり(規則)を守っている」「いじめはいけないと思う」小・中学生の割合は、それぞれ9割を超えています。一方、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した小・中学生の規範意識の向上を目指し、取組をさらに進めていく必要があります。

学校のきまり(規則)を守っている児童・生徒の割合

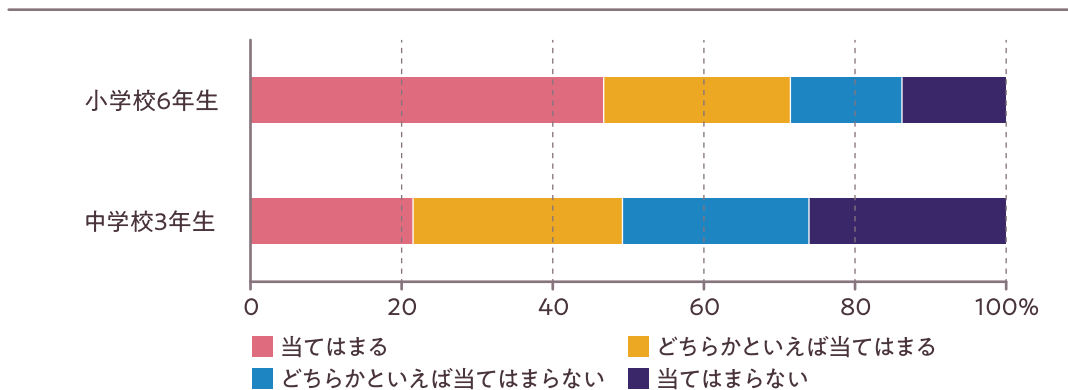


いじめはいけないと思う児童・生徒の割合



「今住んでいる地域の行事に参加している」小学生の割合は7割を超えており、自分が住んでいる地域に対する関心は高くなっていますが、中学生の割合は約5割と低くなっており、年齢が上がっても地域への関心やつながりをもどのように持ち続けさせるかが課題となっています。

今住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合

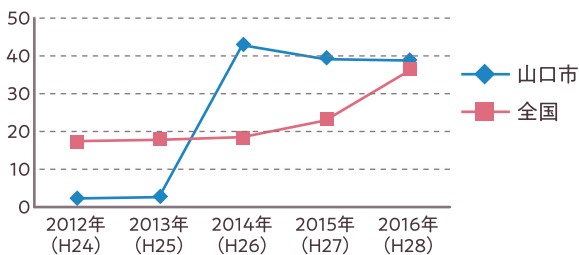


※平成29年度(2017年度)「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

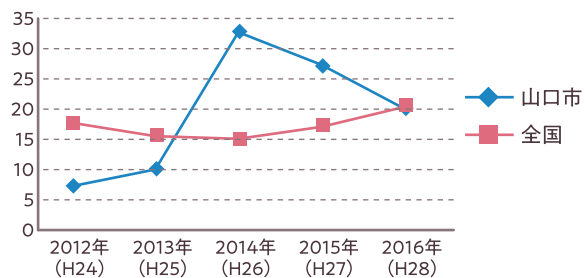
(4) いじめ、不登校等の状況

いじめの認知件数は、平成26年度から「からかい」や「ふざけあい」なども対象にしたことから、山口市の認知件数は大幅な増加となっています。全国の認知件数も平成27年度から増加となり、平成28年度は山口市と全国は同程度の状況です。

小学校の児童1,000人当たりのいじめ認知件数



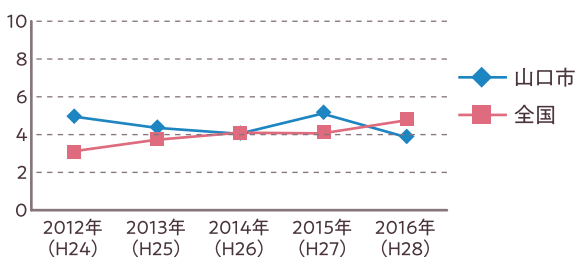
中学校の生徒1,000人当たりのいじめ認知件数



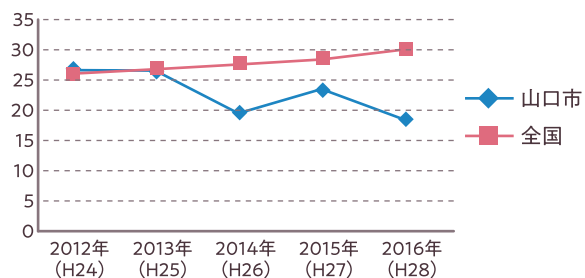
(注) いじめの定義 児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの

平成28年度の小・中学校を対象とした不登校児童生徒数は、全国と同程度かそれ以下の状況です。

小学校の児童1,000人当たりの不登校児童数



中学校の生徒1,000人当たりの不登校生徒数

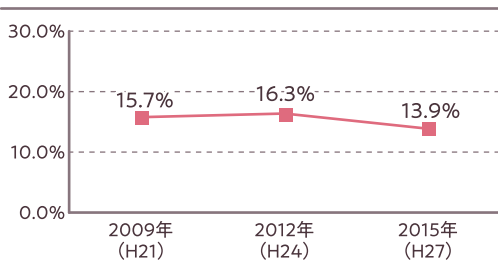


(注) 不登校の定義 年度間に30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、或いは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない或いはしたくともできない状況にあるもの(病気や経済的な理由によるものを除く)

※平成28年度(2016年度)児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査*について (文部科学省)より

全国の世帯を対象とした「国民生活基礎調査*」によると、子どもの貧困率は、平成27年の調査では低くなっています。

子どもの貧困率(全国)



(注) 「子どもの貧困率」

子ども(17歳以下)全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合

※平成28年(2016年)「国民生活基礎調査」(厚生労働省)より

1 教育目標

「やまぐちのまちで育む ふるさとを愛し
豊かな心と健やかな体で 未来を生きぬく子ども」

2 目指す子どもの姿

未来の社会を担うのは、子どもたちです。

その未来への道筋を子どもたちがしっかりと歩んでいくためには、「基礎的・基本的な知識や知恵」、「礼節をわきまえ、自分自身を大切に思うとともに、他人を思いやる心や豊かな感性」、「成長・発達を支える基本的な要素となる体」など、いわゆる「知・徳・体」の3つの力を育てていくことが必要です。

さらに、この3つの力を発揮していくためには、家庭と地域のつながりが希薄化した社会や、あらゆる物がインターネットに繋がりAI(人工知能)が普及するなど、技術革新やグローバル化が進んだ社会に適応するとともに、多文化共生社会^{*}への理解も含めた、コミュニケーション力を身に付けていくことが大切です。

本市では、「知力」、「徳力」、「体力」、「コミュニケーション力」の4つの力を身に付けていくことにより、将来に夢を持ち、その夢に向かって自分自身でその未来を切り拓き、課題が多様化した社会の中でしっかりと生きていける子どもを育てることを目指します。

3 やまぐちのまちで育む

子どもたちは、学校、家庭、地域などの様々な社会環境に支えられ成長しています。

子どもたちが、地域行事に参加し、地域の人々とコミュニケーションをとり、あるいは、豊かな自然や伝統文化にふれることができるように社会環境を整えていくことが重要です。

多くの大学、専門学校や、山口情報芸術センター[YCAM]などの文化・芸術施設を持つ都市としての特長を生かし、「やまぐちのまち」全体が広い意味での教室となり、しっかりと子どもたちの成長を見守っていかねばなりません。

学校、家庭、地域だけでなく、民間企業や様々な団体などが、子どもの成長を育てる担い手であることを認識し、それらが一体となり総力をあげて教育環境を整えていくことが必要です。

